



2011年7月21日

お客様向け資料

BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き上げについて

ブラジル中央銀行は、現地 2011 年 7 月 20 日に開催された COPOM（定例金融政策委員会）において、全会一致で Selic（政策金利）を 0.25% 引き上げ、年率 12.50% とすることを決定したと発表しました。

この利上げは、今回の利上げサイクルでは 5 度目で、合計の引き上げ幅は 1.75% になりました。

ブラジルでは内需主導の経済成長を背景にインフレ圧力が高まっており、6 月の IPCA（拡大消費者物価指数）は前月比 +0.15% で、前年同月比は +6.71% と政府目標上限（4.5% ± 2.0%）を超えています。これは、住宅価格などの上昇に加え、労働市場の逼迫による賃金上昇が、インフレ圧力を高めているためとみられます。

実際、ブラジルの 6 月の失業率は前月を 0.2% ポイント下回る 6.2% と低水準に留まっており、実質賃金（速報値）も前月比 0.5% 増の 1,578 レアルに上昇しています。

こうしたことから、ブラジル中央銀行はインフレを抑制し、持続可能な成長を確実にすると共に、これまでの利上げの効果や、レアル高の進展を勘案し、0.25% の金利引き上げを行ったと考えられます。

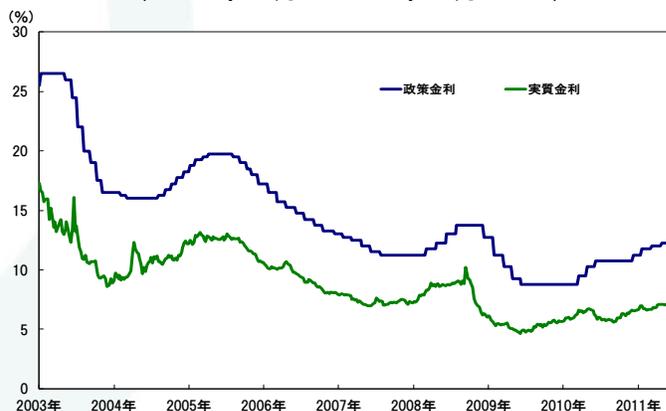
ブラジルの 2011 年 5 月の GDP 成長率は、前月比 1.3% 増、前年同月比 2.7% 増で、5 月製造業設備稼働率も 82.4% と高水準にありますが、6 月の PMI（製造業購買担当者）指数は 49.0 で、景況感の分かれ目とされる 50 を 7 ヶ月ぶりに下回るなど、一部の経済指標は景気減速を示しており、通年の経済成長率は、昨年と比較すると鈍化すると見られています（2010 年は 7.5% 成長）。

今回の利上げは、大方の市場予想に沿ったもので、為替市場では対ドルは 1 米ドル = 1.57 レアル、対円は 1 レアル = 50.38 円（出所：ロイター）となっており、前日と比較しても限定的な値動きに留まっています。

ただ、ブラジル政府は、レアル高の急速な進行には神経質になっており、レアル高抑制に向けた追加政策が導入される可能性もあることから、レアルの動向については注意深く見てまいります。

サッカー・ワールドカップや夏季五輪といった世界的イベントが控えるブラジルでは、インフラ投資が拡大すると予想されています。ブラジル経済は、イベント効果だけでなく、インフラが整うことで、中長期的な成長が期待されますが、足元では、欧州債務危機によるリスク回避の流れや、世界経済の鈍化懸念による商品市況の下落の影響も勘案してまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移 (2003年2月～2011年7月20日)



2011年7月20日
12.25% → 12.50%へ
0.25%の引き上げ

* 政策金利：Selicを使用。
* 実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出

本資料は、BNP パリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する情報を提供することを目的として、2011年7月21日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できると思われる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。